

関市議会 議会運営委員会 視察報告書

- 1 視察日程 令和6年8月19日（月）
- 2 視察事項 愛知県安城市
- ・議会ICT化について
- 3 参加者 委員長 足立 将裕
 副委員長 武藤 記子
 委員 田中 巧
 委員 池村 真一郎
 委員 林 裕之
 委員 長尾 一郎
 委員 栗山 守
 委員 小森 敬直
 議長 幅 永典
 随 行 藤井 芳文（議会事務局）

視察事項 議会 I C T 化について

訪問日時 令和 6 年 8 月 1 9 日（月） 午前 1 0 時 0 0 分 ～ 午前 1 1 時 3 0 分

訪 問 先 所 在 愛知県安城市桜町 1 8 番 2 3 号
名 称 安城市議会
担当部署 議会事務局

説明・調査内容（概要）

安城市議会は、議会改革の一環として、平成 2 7 年 6 月に安城市議会 I C T 推進 P T を発足し、タブレット端末や電子採決システム、議場内の大型モニターの導入等について協議、検討を進めてきた。平成 2 8 年 1 月から電子スケジュール、掲示板の運用を、平成 2 8 年 2 月からペーパーレス会議の試行を開始し、現在まで活用を図ってきている。具体的な取組内容については、次のとおりである。

<主な I C T 推進 P T の実施・検討事項>

- ①現状調査（I C T 化に対する議員の意識調査）
- ② I C T ベンダーへのヒアリング、近年の I C T トレンド調査
- ③市執行部との意見交換、推進体制の検討（議会 I C T 化の目指す姿と実施事項・計画の明確化）
- ④システム構成、導入機器、費用の検討（グループウェア、ビューワー・電子会議システム、タブレット端末など、I C T が苦手な議員でも使える環境）
- ⑤利用規約、費用負担など議会のルール作成
- ⑥議員の操作およびリテラシー教育（全議員の足並みを揃え丁寧な I C T 化推進）



【写真 1】安城市議会議員による説明を受ける様子

③の市執行部との意見交換、推進体制の検討では、市執行部ではすでにシステム導入済みであることから、議会単独で議会ＩＣＴ推進基本計画を策定へ。

<議会ＩＣＴ推進基本計画>

第１章　－ 総論 － 「市民に開かれた市議会」のなお一層の実現と効率的で迅速な議会運営、議会の活性化、危機管理体制の強化などさらなる議会改革

第２章　－ 基本的な考え方 －

A c t i v e : 効率化・活性化など議会改革を積極的に推進する

N e x t : ＩＣＴを積極的に活用した次代の議会運営を行う

J o i n : 市民と繋がる（議会への市民参加と関心の向上を図る）

O p e n : 議会情報を分かり易く市民に公開する

第３章　－ 議会ＩＣＴ化推進事業計画 －

ペーパーレス会議、電子スケジュール・掲示板、議会のライブ中継、ＳＮＳ活用・ホームページリニューアル、議会情報オープンデータ化、議会ＢＣＰなど。まずは、議案書、議案説明書をターゲットにペーパーレスを実施へ

④のシステム構成、導入機器、費用の検討では、電子会議システムの選定は、フォルダ階層を重視してサイドボックスに決定した。タブレットについては、操作が簡単で操作の標準化がしやすいｉＰａｄを選択、画面サイズはＡ４資料がそのままのイメージで参照できる１２．９インチ、データ定額、５年のレンタルプランを採用した。

⑤の利用規約、費用負担など議会のルールの作成では、

○タブレット端末を持ち出して議員活動を行うことが前提

- ・ 議会・庁舎内だけでなく行政調査、普段の議員活動で利用する
- ・ 常に携帯することによってリテラシーの向上を図る

○必要最低限の約束事を取り決め

- ・ 標準のソフトはグループウェアとペーパーレス会議システム
- ・ 端末の初期設定は行うが必要なソフトウェアは各自で判断してインストールを行う
- ・ 議員活動とは無関係な用途に用いることは禁止
(議会中に録音、録画、音を出す、外部とのやり取りは禁止)

○市民への説明は自己責任

⇒ 安城市議会の情報通信機器使用基準を策定した

主な質疑応答

- 質問 ペーパーレス化等、議会 I C T の効果は。
- 回答 ペーパーレス化の費用対効果は、2 2 2 万円/年の削減(H 2 9 年度実績)。ペーパーレス化だけが目的ではなく、議会の効率化、迅速化、議員活動の充実が狙い(資料の検索・閲覧の利便性向上による審議の充実、議会運営の円滑化)。職員等の事務作業の短縮時間などについては、把握していないが、資料の配布、差替え等に要する時間が大幅に短縮されたと感じている。
- 【現状】議案書、補正予算書は、希望する会派のみに 1 部ずつ紙資料を渡している。予算書・予算説明書、決算書・主要事業の行政報告書は、ほとんどの議員が紙資料と併用している。
- 質問 グループウェアの活用状況は。
- 回答 サイボウズ(クラウド版)
- 議員への通知、連絡等を「個人フォルダ」により行っている。
- 「スケジュール」により、議会関係のスケジュールは議会事務局で全議員に入力している。正副議長のスケジュールは事務局で入力・管理している。それ以外のスケジュールは、基本的に議員自ら入力・管理している。
- 質問 サイドボックス、サイボウズのメリット・デメリットは。
- 回答 【サイドボックス】
- フォルダ階層を重視して導入した。メモ機能があるため、マーキングしたりメモを入れたりすることができる
- 【サイボウズ】
- 導入時、他のシステムとの機能の比較はしていないが、議員への通知、連絡、スケジュール調整・管理が円滑にできる。
- 質問 タブレットを活用した電子採決システムの導入効果は。
- 回答 議場内のモニターに議員ごとの賛否を映すことで、傍聴者に議員別賛否が分かりやすい。また、議会中継(ライブ・録画・ケーブルテレビ)の画面にも同様に賛否を映しており、視聴者にも議員別賛否が分かりやすい。
- 各議員の賛否をウェブサイトで公開しているが、各議員の賛否確認をシステム上で行うことができる。
- 議席上に押しボタン式採決システムを設置するのと比較して安価で電子採決システムを導入できる。電子採決時には、各議員がパスコード(数字 4 桁)の入力をする必要があるが、会議開始前にあらかじめ行うようにすることで、時間短縮を図っている。また、通信やタブレットの不具合により、会議を中断することがあったことから、採決時は携帯回線(4 G ・ 5 G)に切り替えたり、予備のタブレットを用意して対応している。

質問	システム構築や機器導入の費用について。
回答	導入機器：i P a d p r o (12.9インチ)Wi-Fi セルラーモデル 契約形態：レンタル 台数：34台(議員28台、事務局6台) 金額：1台あたり月額約4,500円(通信料込) 公費：約2,500円、政務活動費：2,000円 更新：平成28年2月に導入。令和4年5月より新機種に更新(5年契約) その他：議会フロアにWi-Fi整備 ○ソフトについて ・システムの構成・利用ソフト等について グループウェア：サイボウズ office (導入費：285,000円、ランニングコスト：約180,000円/年) 会議システム：サイドブックス (導入費：173,000円、ランニングコスト：990,000円/年)
質問	今後の課題と対応について。現在の状況は。
回答	①ペーパーレス会議システムの使い勝手の向上 ②利便性とペーパーレス化のバランス ③定期的なフォローアップ講習の実施
質問	議会質問における大型モニターの活用状況と使用に当たってのルールは。
回答	代表・一般質問において、持込資料を投影している。 前日正午までに持込願と持込資料を提出する。併せて、投影資料のデータを事務局に提出するとともに、投影するタイミング等を指定する。モニターへの投影は、職員がモニター室でカメラ映像を切替えて投影する。
質問	インターネット議会中継の取組は。
回答	インターネットライブ・録画中継は、代表質問(3月定例会)・一般質問、閉会日、3月定例会開会日(施政方針)に行っている。
質問	第2次ICT推進計画の実績について。
回答	実績の取りまとめをしていないため、詳細は不明です。
質問	第2次ICT推進計画から取りやめた理由は。
回答	議場コンサートのライブ中継については、平成29年12月定例会で初の議場コンサートを開催し、平成30年に2回目の開催をしたが、それ以降開催がされなかったため、計画から削除したと思われる。議会のBCP策定については、令和3年4月に議会のBCPを策定したため、計画から削除した。

質問 資料を見比べるためにタブレットを議場に２台持ち込むことは行っているか。
回答 議長の許可があれば持ち込めるようになっているが、２分割の画面を使用して資料を見比べているため、２台持ち込んでいる議員はいない。

質問 サイボウズのスケジュール機能を使った日程調整の方法は。
回答 事務局が全体のスケジュールを入力するだけでなく、議員が個人のスケジュールも入力しているため、それで日程の目星を付けている。また、アンケート機能を使って候補日から都合の良い日を回答してもらい日程を調整することもできる。

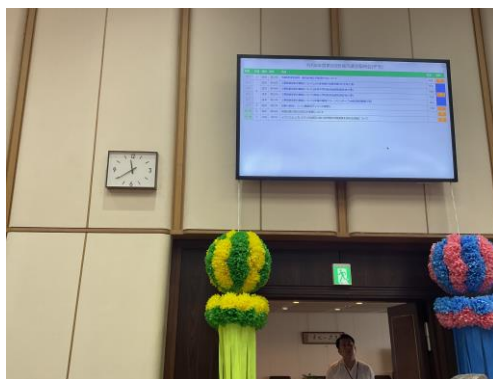
質問 一般質問で大型モニターを利用する議員の割合は。
回答 ８割ぐらいの議員が使用している。言葉で伝えにくい部分もモニターを使うことにより伝えやすくなっていると感じている。



【写真２】議場入口上と傍聴席横のモニター



【写真３】傍聴席横のモニター



【写真４】議場入口上のモニター



【写真５】議場入口上のモニター

調査結果 （視察調査を実施しての所感、考察、提言）

- ・電子採決システムは、挙手採決のように賛否が議長や事務局に分かりづらいということがないため有効な手段であると考ええる。
一方で、議員が曖昧な挙手をせず、議長が確認できるようにしっかりとした挙手を行えば、システムを導入しなくても従来通りの挙手（又は起立）による採決で良いのではないかと考える。
電子採決システムを導入するには、継続的な利用料が必要である。また、Wi-Fiの不具合によりシステムが正常に作動せず、議事進行に影響を与えることもある。
導入については、費用面だけではなく、必要性や懸念事項について十分に検討する必要があると考える。
- ・代表・一般質問における大型モニターの利用については、具体的な写真や図などの資料を表示することにより、議員や当局、傍聴者に分かりやすい説明をすることができるメリットがある。
一方で、安城市議会では、当日の大型モニターへの投影作業は、議員本人による操作ではなく、事務局職員が行っており、投影のタイミングなどの打合せが必要であるなど手間がかかるというデメリットがある。
また、実際に安城市の議場に設置されたモニターを見学したが、思っていたよりも画面が小さく、文字は見にくいと思われる。
大型モニターの導入には、複数台の本体の購入費用や設置工事費用に加え、システム利用料などの維持費用も必要である。
導入については、費用面はもちろん、実際の運用にあたっての労力や効果についても十分に検証する必要があると考える。
- ・サイボウズのスケジュール管理については、会派、個人にかかわらず、スケジュールを全議員と事務局で共有できることは便利であると考ええる。
一方で、議員個人の予定を入力しなければいけないことの是非について検討する必要があると考える。
現在、関市議会でも、議長出席予定の行事については、全議員がカレンダーで共有できている。また、日程調整については、サイボウズのスケジュール管理でなくても、他のソフトなどでも可能であると考ええる。
導入については、費用面だけではなく、全議員が個人のスケジュールを入力しなければならなくなることについての是非など、実際の運用にあたっての問題点などを十分に検証する必要があると考える。

- ・安城市議会では、タブレットの基本操作、便利な機能紹介や議員活動に役立つソフトの紹介など、定期的なフォローアップ講習を実施しており、大変効果的であると考えている。

現在、関市議会では、無料のアプリなどを独自でインストールして活用している議員もあり、そのような議員が講師となって講習会を開催することを検討してはどうかと考える。

関市議会のタブレット運用は、無料のドロップボックスやメール、カレンダー機能を利用するなど、運用に費用をかけていないところが良い点である。

費用をかければ当然、便利になることも増えると考えられるが、有料のシステムの導入については、費用に対する効果やデメリットについても十分に検討しなければならないと考える。



【写真6】議場での集合写真 ※七夕議会の飾り付けがされている